

ダイジェスト版

子どものICT 利用に関する調査 2023

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
子どもの生活と学びに関する親子調査
【特別調査】



近年、子どもたちの学校や家庭でのICT機器の使用は急速に拡大しています。そこで、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、2023年2～3月に、小学4年生から高校3年生までのおよそ9,000人を対象に、子どもの学校と家庭におけるICT利活用の実態と意識を捉えることを目的とした調査を行いました。ここに報告する調査結果が、子どもたちの学びと生活の「今」を把握することにお役に立てればと考えております。

調査概要

調査テーマ

小中高校生の学校と家庭での ICT 機器利用の実態と意識

調査時期

2023 年 2～3 月

調査方法

郵送にて「子どもの生活と学び」研究プロジェクトのモニターに調査を依頼。
依頼を受けた調査モニターは Web 画面にアクセスして回答。

調査対象

小学 4 年生～高校 3 年生

	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生	計
発送数	1,848	1,943	1,942	1,801	1,725	1,519	1,544	1,391	1,374	15,087
回収数	1,272	1,274	1,303	1,162	1,033	902	811	708	717	9,182
回収率	68.8%	65.6%	67.1%	64.5%	59.9%	59.4%	52.5%	50.9%	52.2%	60.9%

※「子どもの生活と学び」研究プロジェクトや調査モニターに関しては、ベネッセ教育総合研究所の Web サイトにてご確認ください。
<https://berd.benesse.jp/special/childdedu/>

調査項目

1. 学校での ICT 機器利用
利用する ICT 機器の種類／利用頻度・時間・教科／ ICT 機器を使った子どもの活動と教員の指導／
ICT 機器の利用に対する意識／宿題での利用／持ち帰りと家庭での利用／学校での利用への意見や評価など
2. 家庭での ICT 機器利用
利用する ICT 機器の種類／利用頻度・時間／インターネットの利用率・用途・人との交流／
SNS の利用状況／読書／ ICT 機器を使った家庭学習の内容・頻度・評価など

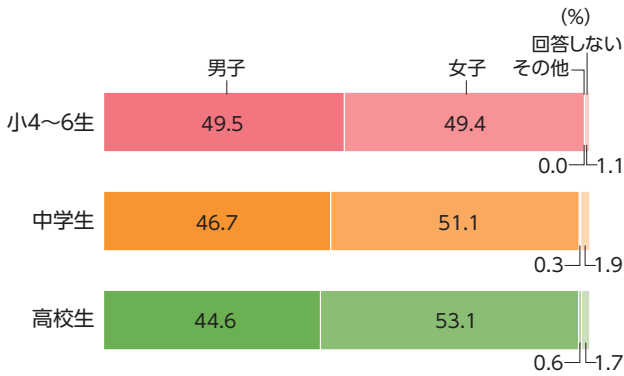
※データや解説文の表記に関する留意点について
・図表内の () は分析対象者数を示す。有効回収数すべて (小4～6生 (3,849 人)、中学生 (3,097 人)、高校生 (2,236 人)) を集計対象としている場合は、人数を示していない。
・本報告書で使用している百分率 (%) は、各項目の算出方法に沿って出した値の小数点第 2 位を四捨五入して表示している。その結果、数値の和が 100 にならない場合がある。
・解説文では、項目の表記を省略する場合がある。
・解説文では、「小中学生」や「小中高校生」という表現での「小学生」は「小4～6生」を指す。

調査概要	p2
基本属性・ICT機器利用に関する基本情報	p3
1 学校でのICT機器の利用	p4～p11
1-1 ICT機器の利用頻度・時間・教科	
1-2 ICT機器を使った子どもの活動	
1-3 ICT機器を使った教員の指導	
1-4 ICT機器の利用に対する意識	
1-5 学校の宿題でのICT機器の利用	
1-6 学校のICT機器の持ち帰りと家庭での利用	
1-7 学校でのICT機器の利用に対する意見や評価	

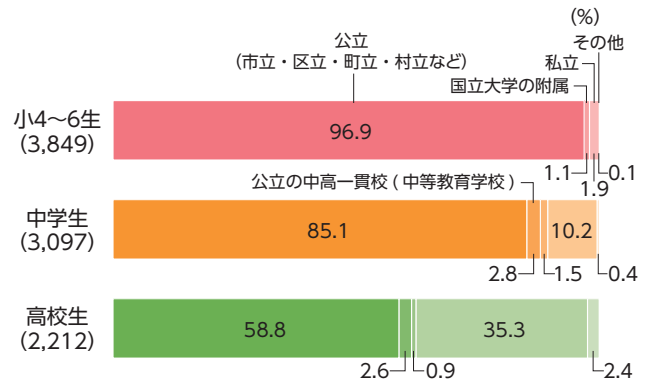
2 家庭でのICT機器の利用	p12～p19
2-1 家庭で利用する機器の種類と利用頻度・時間	
2-2 インターネットの利用率と利用用途	
2-3 インターネットでの人との交流	
2-4 SNSの利用状況	
2-5 読書	
2-6 家庭学習時間	
2-7 ICT機器を使った家庭学習の内容	
2-8 ICT機器を使った家庭学習に対する評価	

基本属性

性別



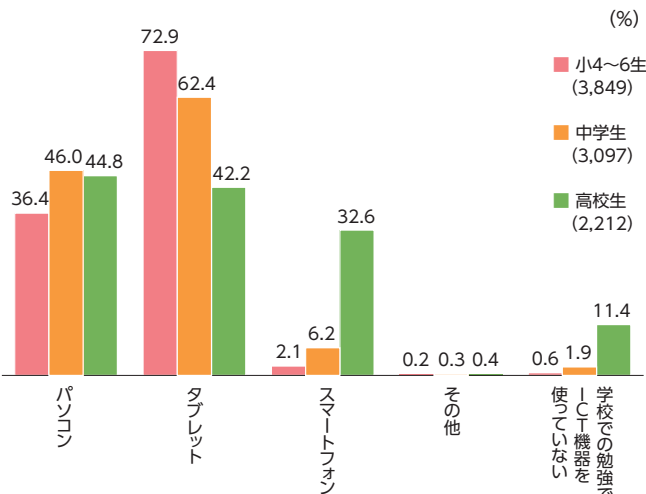
通っている学校の種類



注) 学年をたずねた質問で、「在学していない」を選択した人を除いて分析。

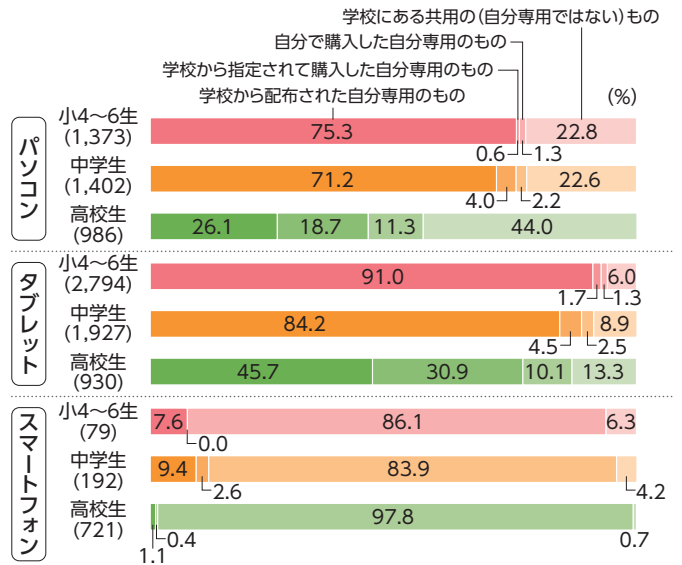
ICT 機器利用に関する基本情報

学校で勉強の目的で使っている ICT 機器の種類

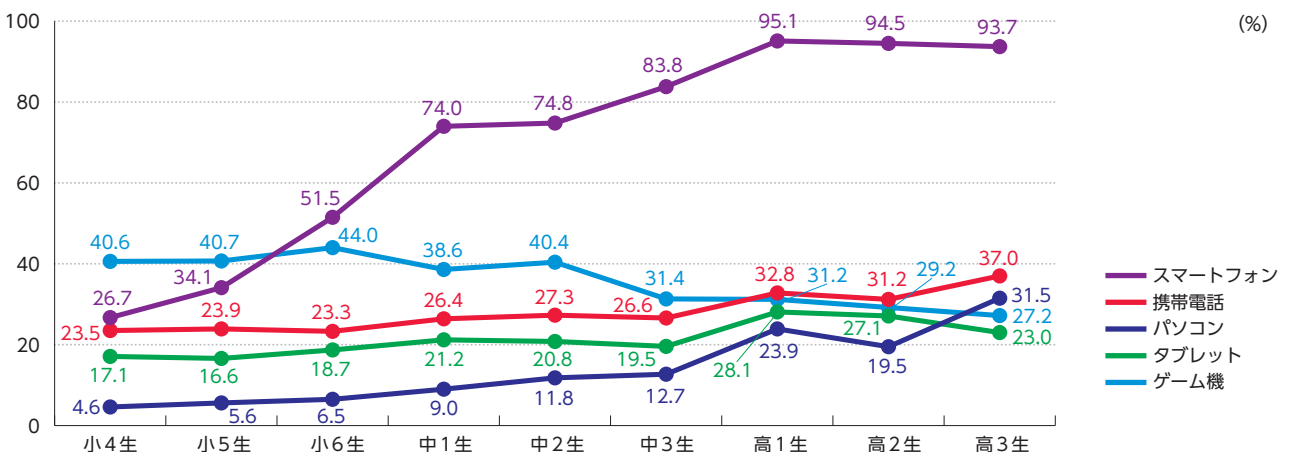


注1) 学年をたずねた質問で、「在学していない」を選択した人を除いて分析。
注2) 複数回答。

学校で使っている ICT 機器の調達ルートと所有状況



家で使っている ICT 機器について「自分専用のものを使っている」比率 (学年別)



注) ICT 機器の種類別に家で使っている状況をたずねた質問で、「自分専用のものを使っている」を選択した人の比率。

1 学校での ICT 機器の利用

1-1 ICT 機器の利用頻度・時間・教科

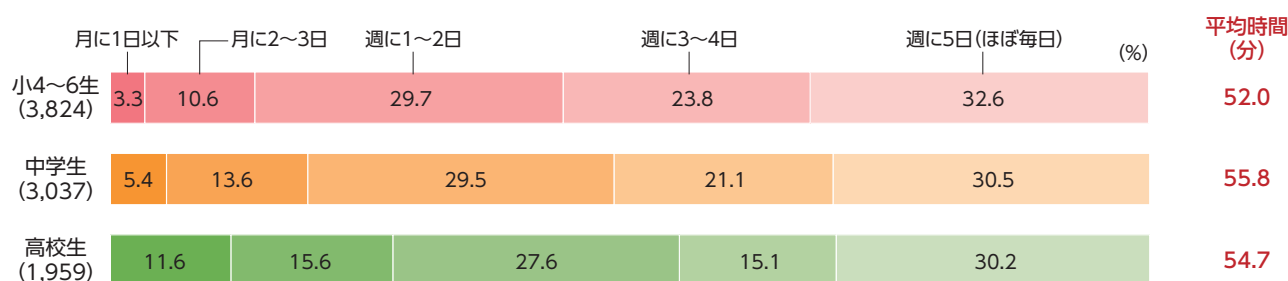
3割の小中高校生は、学校で「ほぼ毎日」ICT 機器を使用

学校において勉強の目的で ICT 機器を使う頻度は、学校段階が高くなるにつれて、低くなる特徴がみられる。一方、1日の平均使用時間はどの学校段階でも50分台であり、大きな差はない。教科別に授業での使用頻度をたずねたところ、「国語」「算数／数学」「理科」「社会／地理歴史・公民」では、学校段階が低いほど ICT 機器の使用頻度が高い傾向がある。「英語」は中学生がもっとも ICT 機器を使っている。

Q 学校では、勉強に使う目的で ICT 機器をどれくらい使っていますか。

Q 学校では、勉強に使う目的で ICT 機器を、1日あたりどれくらいの時間使っていますか。使う日について、1日あたりだいたいの平均使用時間を教えてください。

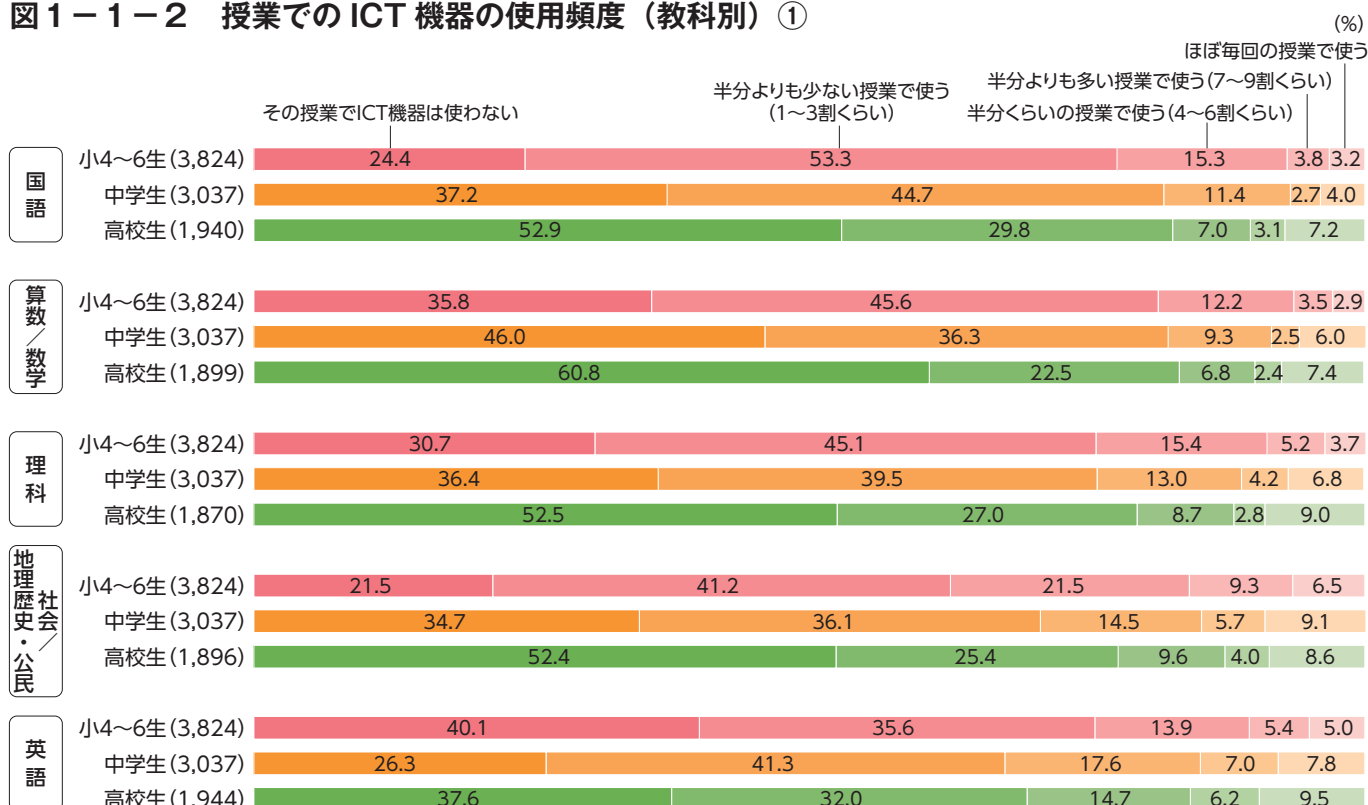
図1-1-1 学校で勉強の目的で ICT 機器を使っている頻度と平均時間



注1) ICT 機器の使用頻度については、学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。
注2) 平均時間は学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人も母数に含めて、0分とし、「5分未満」を2.5分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて算出。

Q 次の教科の授業のなかで、ICT 機器をどれくらいの割合で使いますか。

図1-1-2 授業での ICT 機器の使用頻度 (教科別) ①



注1) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。
注2) 高校生については、「その教科を履修していない」人を除いて分析。

1 学校での ICT 機器の利用

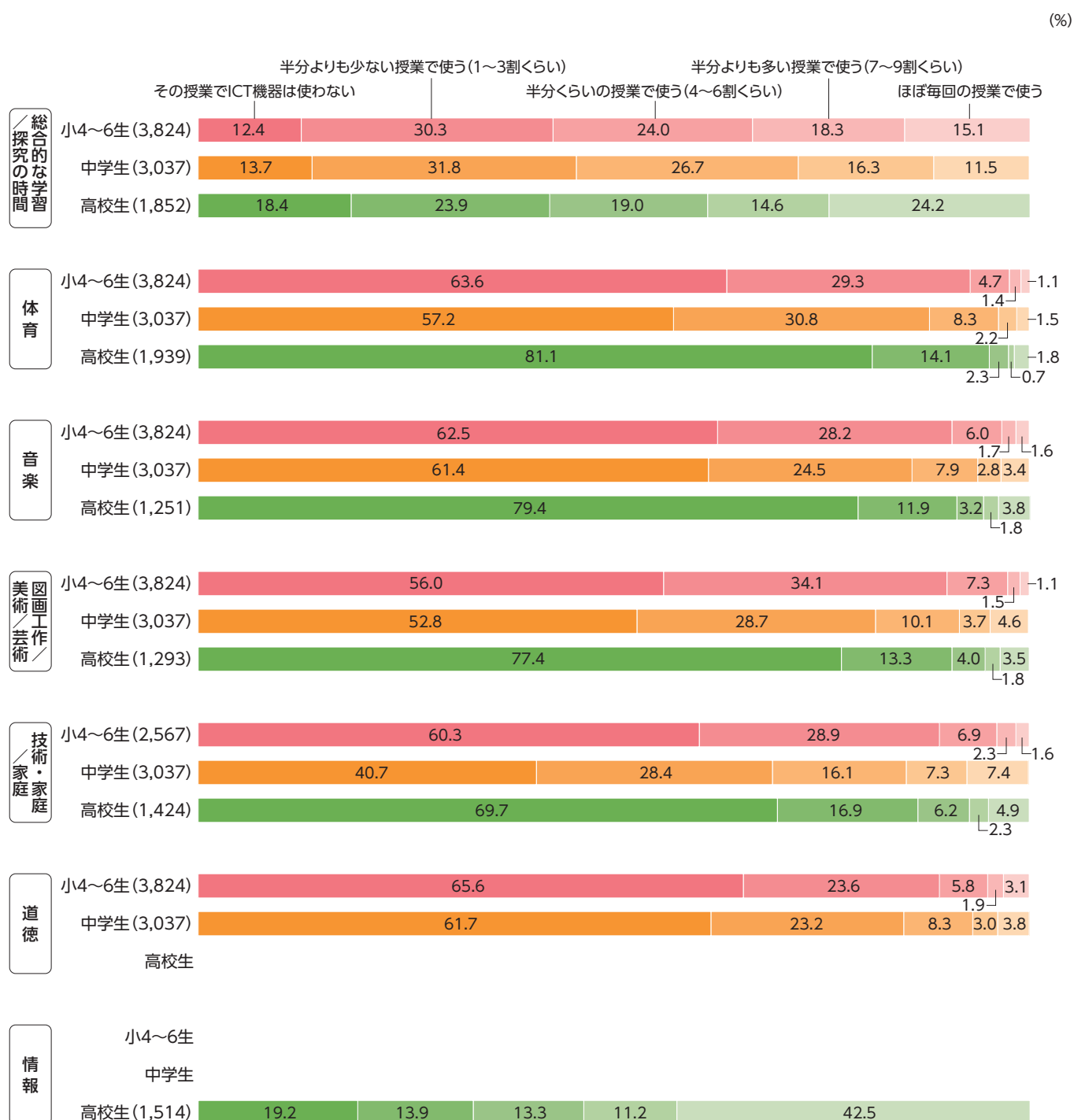
1-1 ICT 機器の利用頻度・時間・教科

「総合的な学習の時間」は授業での ICT 機器を活用する割合が高い

引き続き教科別に授業での ICT 機器の使用頻度をみると、「技術・家庭 / 家庭」は、中学生の使用頻度が高い。ICT 機器を使わない割合に注目すると、「体育」「音楽」「図画工作 / 美術 / 芸術」「道徳」は、いずれの学校段階でも 5～8 割だ。「総合的な学習の時間」では、小中学生の 1 割、高校生の 2 割が「ほぼ毎回の授業」で ICT 機器を使っている。

Q 次の教科の授業のなかで、ICT 機器をどれくらいの割合で使いますか。

図 1-1-3 授業での ICT 機器の使用頻度（教科別）②



注 1) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。

注 2) 高校生については、「その教科を履修していない」人を除いて分析。

注 3) 高校生の「道徳」はたずねていない。小4~6生、中学生の「情報」はたずねていない。

1 学校での ICT 機器の利用

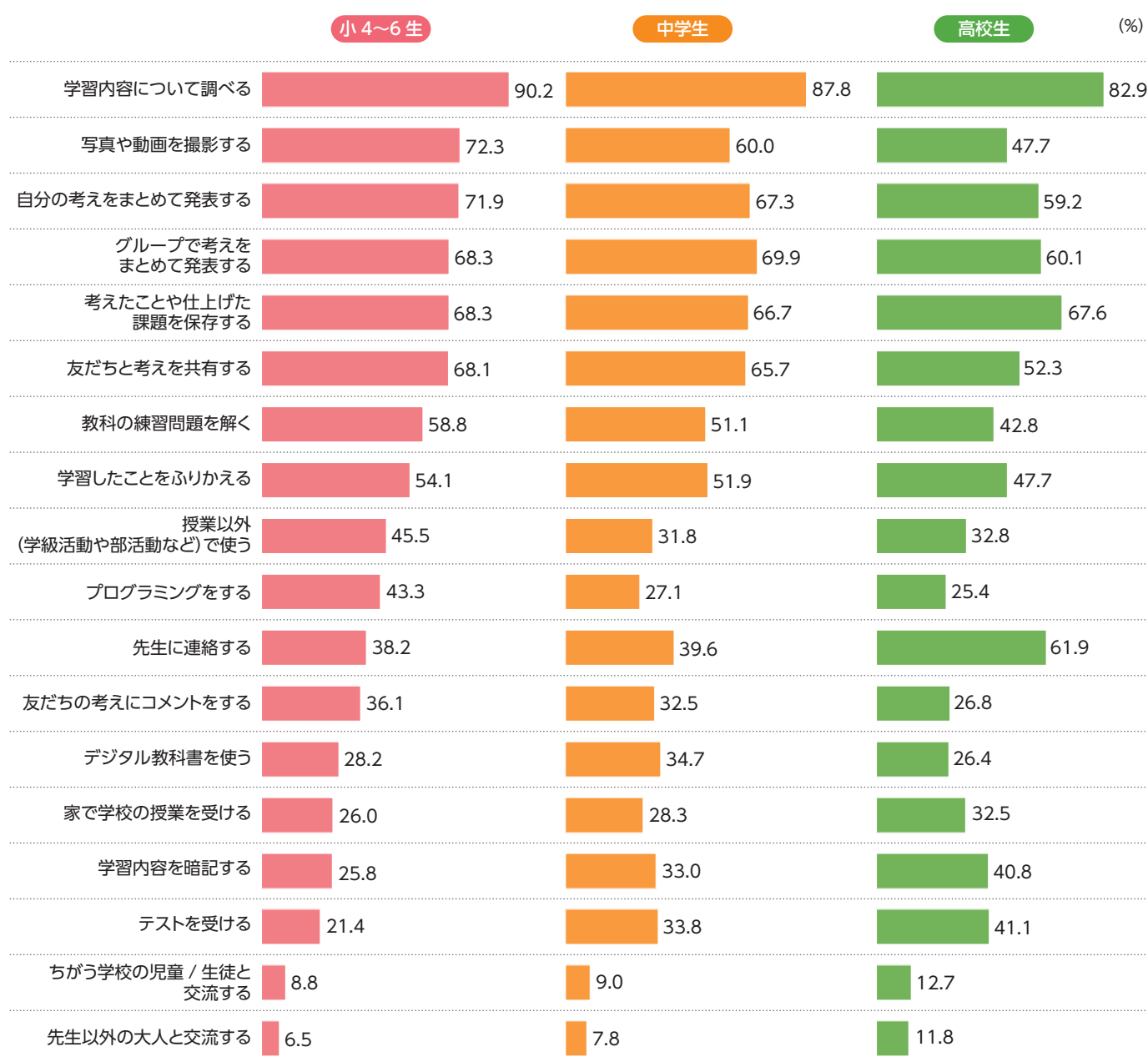
1-2 ICT 機器を使った子どもの活動

探究的な学びで ICT 機器を活用している小中高高校生が多い

子どもが学校で ICT 機器を使って行う活動をたずねたところ、どの学校段階でも「学習内容について調べる」ことでの活用がもっとも多い。また、小中学生は「写真や動画の撮影」「自分の考えをまとめて発表」「グループの考えをまとめて発表」「友だちと考えを共有」といった探究的な学びでの活用が多い傾向がある。一方、高校生は「考えや課題を保存」「先生との連絡」「テスト」「家でのオンライン授業」「人との交流」など、より幅広く ICT 機器を活用していることがわかる。

Q あなたは学校で、ICT 機器を使って、次のような活動をどれくらいしますか。

図 1-2-1 学校で ICT 機器を使った子どもの活動



注1) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は、小4~6生は 3,824 人、中学生は 3,037 人、高校生は 1,959 人。

注2) 「よくする+ときどきする」の%。

注3) 小4~6生の数値の降順に示す。

1 学校での ICT 機器の利用

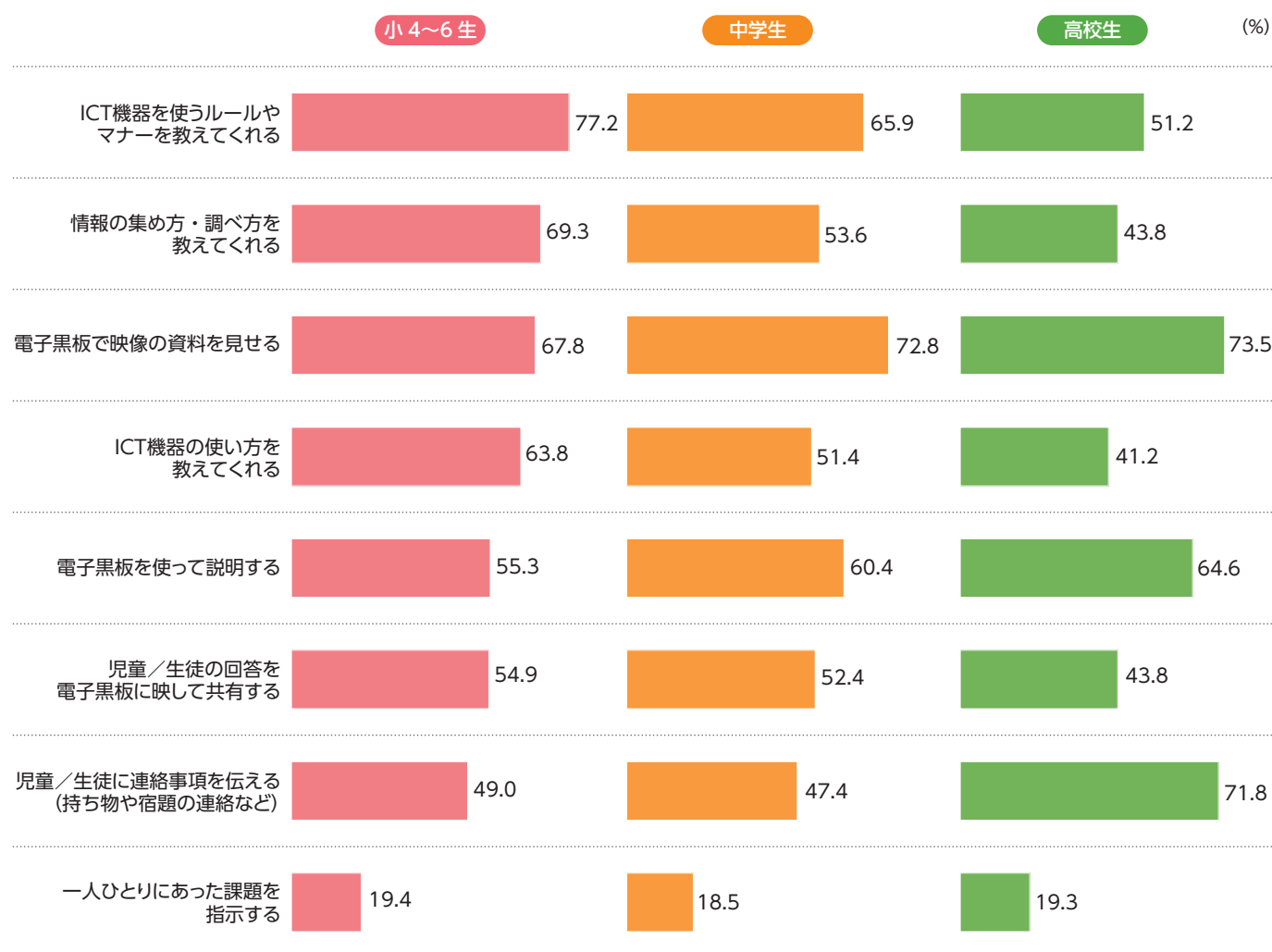
1-3 ICT 機器を使った教員の指導

学校段階を問わず「一人ひとりにあった課題を指示」での活用は 2 割弱にとどまる

教員が ICT 機器を使って行う指導についてたずねたところ、小4～6生では、「ICT 機器を使うルールやマナーを教えてくれる」（「よくする+ときどきする」8割弱）こと、中高生になると「映像の資料を見せる」（7割）ことがもつとも多い。それ以外に、学校段階が低いほど「情報の集め方・調べ方」「ICT 機器の使い方」を教えてくれる、「子どもの回答を共有する」といった指導での活用が多い。一方、学校段階が高いほど「電子黒板での説明」で活用することが多い。さらに高校生では、「連絡事項の伝達」で ICT 機器を活用する傾向がみられた。

Q 学校の先生は、ICT 機器を使って、次のようなことをどれくらいしますか。

図 1-3-1 学校で ICT 機器を使った教員の指導



注1) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は、小4～6生は 3,824 人、中学生は 3,037 人、高校生は 1,959 人。

注2) 「よくする+ときどきする」の%。

注3) 小4～6生の数値の降順に示す。

1 学校での ICT 機器の利用

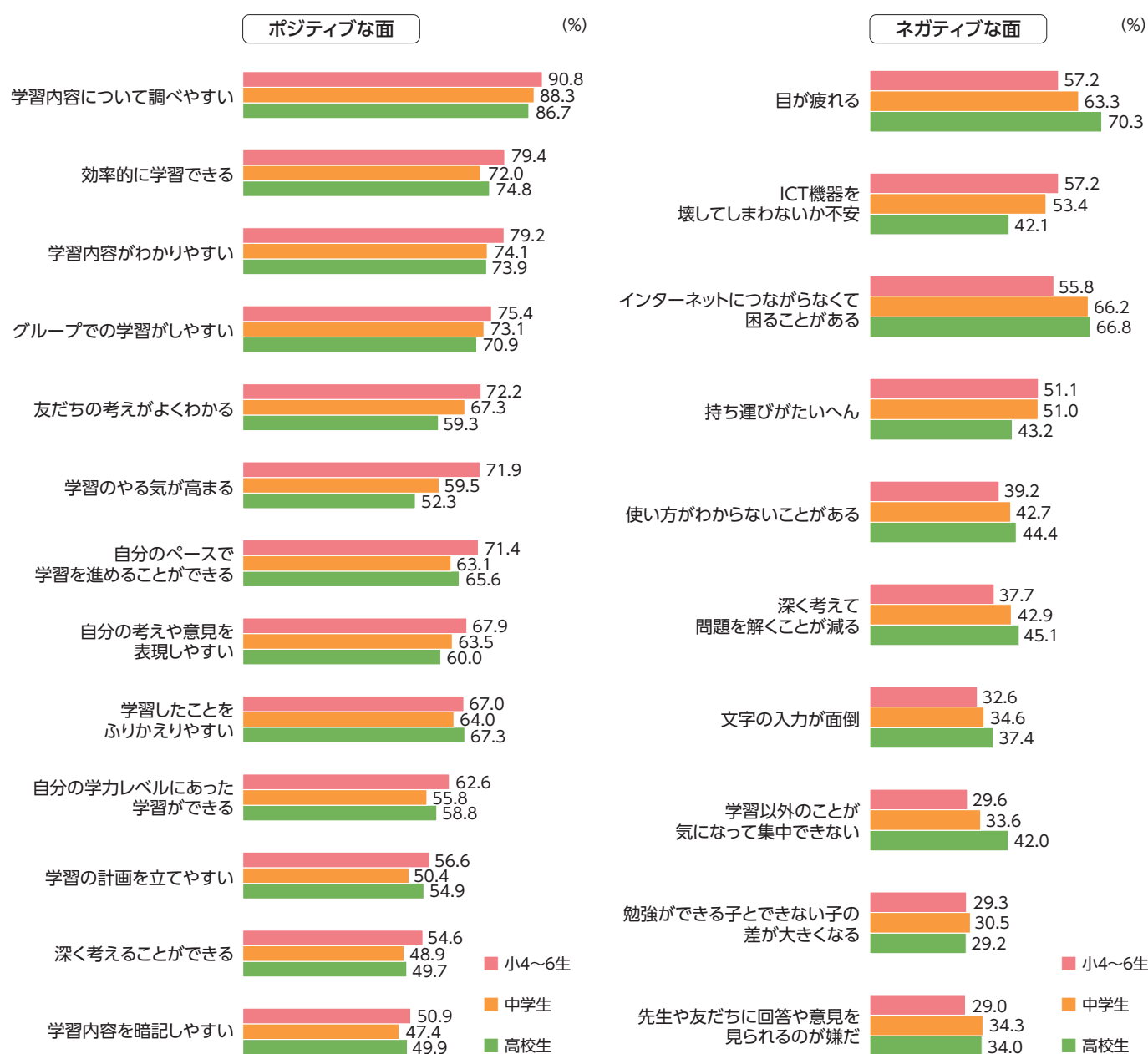
1-4 ICT 機器の利用に対する意識

9割前後の小中高校生は「学習内容について調べやすい」と感じる

学校での ICT 機器の利用について、全体的に子どもたちはポジティブに捉えている。「学習内容について調べやすい」「効率的に学習できる」「学習内容がわかりやすい」「グループでの学習がしやすい」はどの学校段階でも7割（「とてもそう思う+まあそう思う」）を超え、ICT 機器の利用を好意的に感じている。しかし、「深く考えることができる」「学習内容を暗記しやすい」と感じる中高生は5割弱にとどまる。また過半数の小中高校生が「目が疲れる」「つながらなくて困る」と感じている。さらに「学習以外のことが気になって集中できない」と感じる高校生は4割を超えている。

Q 学校で ICT 機器を使うことについて、どのように感じますか。

図1-4-1 学校での ICT 機器の利用に対する意識



注1) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は、小4~6生は 3,824 人、中学生は 3,037 人、高校生は 1,959 人。

注2) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。

注3) 小4~6生の数値の降順に示す。

1 学校での ICT 機器の利用

1-5 学校の宿題での ICT 機器の利用

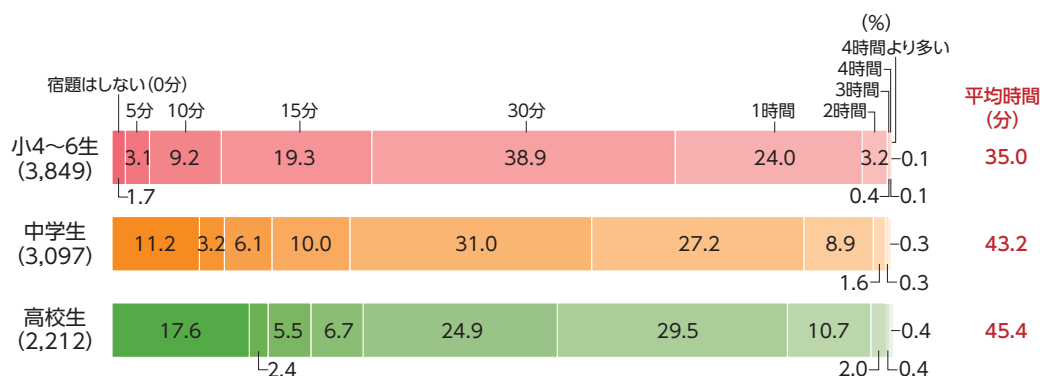
小中学生の 1 割、高校生の 2 割は半分以上の宿題で ICT 機器を使っている

学校の宿題時間は、小中高校生とも 30 分～ 1 時間に集中する。学校段階が上がるにつれ、宿題の平均時間は長くなる傾向がある。高校生になると、宿題時間が 2 時間以上（「2 時間」～「4 時間より多い」）の人は 1 割いるが、一方で「宿題はしない」人も 2 割弱で、二極化していることがわかる。また小中学生の 5 割以上、高校生の 6 割以上が学校の宿題で ICT 機器を使っている。さらに大都市ほど「宿題で ICT 機器は使わない」比率が低い傾向がみられた。

Q あなたは学校から出た宿題を、1 日あたりどれくらいの時間していますか。
1 日の時間が違うときは、平均してだいたい時間を教えてください。（図 1-5-1）

Q 学校から出る宿題のなかで、ICT 機器をどれくらいの割合で使いますか。（図 1-5-2）

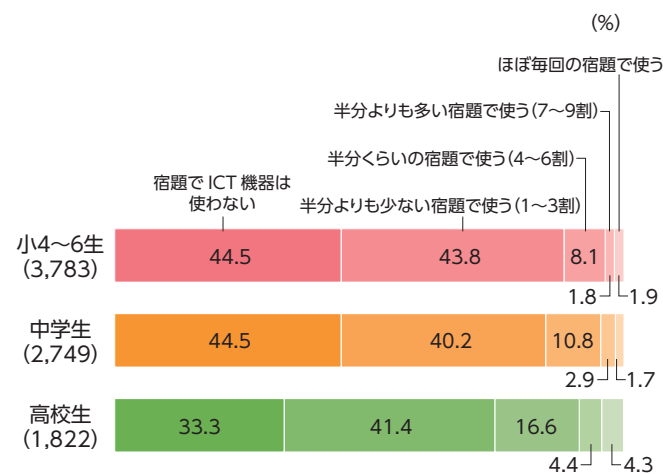
図 1-5-1 1 日あたりの学校の宿題時間



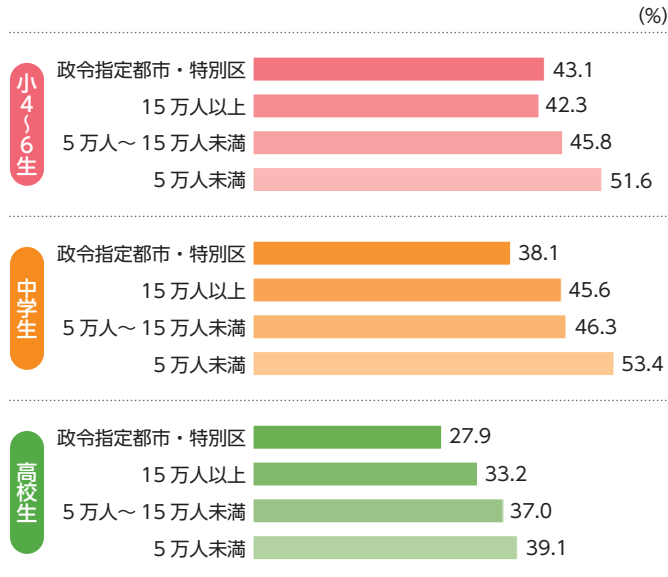
注 1) 学年をたずねた質問で、「在学していない」を選択した人を除いて分析。
注 2) 学校の宿題の平均時間は「宿題はしない (0 分)」を 0 分、「4 時間」を 240 分、「4 時間以上」を 300 分のように置き換えて算出。

図 1-5-2 学校の宿題のうち、ICT 機器を使った宿題の割合

① 学校段階別



② 「宿題で ICT 機器は使わない」を選択した比率（人口規模別）



注) 1 日あたりの学校の宿題時間をたずねた質問で、「宿題はしない (0 分)」を選択した人を除いて分析。

1 学校での ICT 機器の利用

1-6 学校の ICT 機器の持ち帰りと家庭での利用

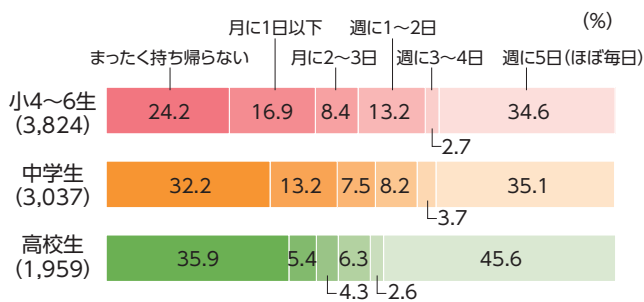
中高生は持ち帰る人と持ち帰らない人で二極化

学校の ICT 機器を「まったく持ち帰らない」小4～6生は2割、中高生は3割いる。一方、「週に5日（ほぼ毎日）」持ち帰る小中学生は3割であり、高校生になると4割を超える。また半数以上の子どもたちは「宿題をするため」に持ち帰ると回答した。学校の ICT 機器の家庭での用途をみると、どの学校段階でも「調べる」「発表のための資料作成」での利用が高い。また高校生では、「作文やレポートの作成」「映像授業の視聴」「暗記」といった学習から、「将来の仕事調べ」「進学したい学校調べ」「学習の計画立てやスケジュールの管理」まで、持ち帰った学校の ICT 機器を幅広く活用している様子がわかる。

Q 学校で使っている ICT 機器を、どれくらい家に持ち帰っていますか。(図1-6-1)

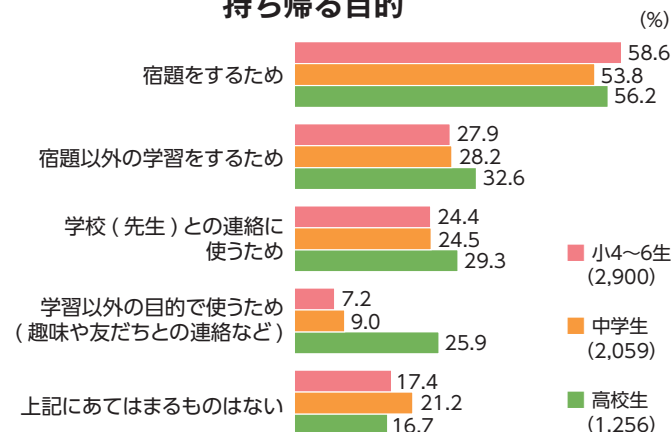
Q 学校から持ち帰った ICT 機器は、どのような目的で使っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。(図1-6-2)

図1-6-1 学校で使っている ICT 機器を持ち帰る頻度



注) 学校で使っている ICT 機器の種類をたずねた質問で、「学校での勉強で ICT 機器を使っていない」を選択した人を除いて分析。

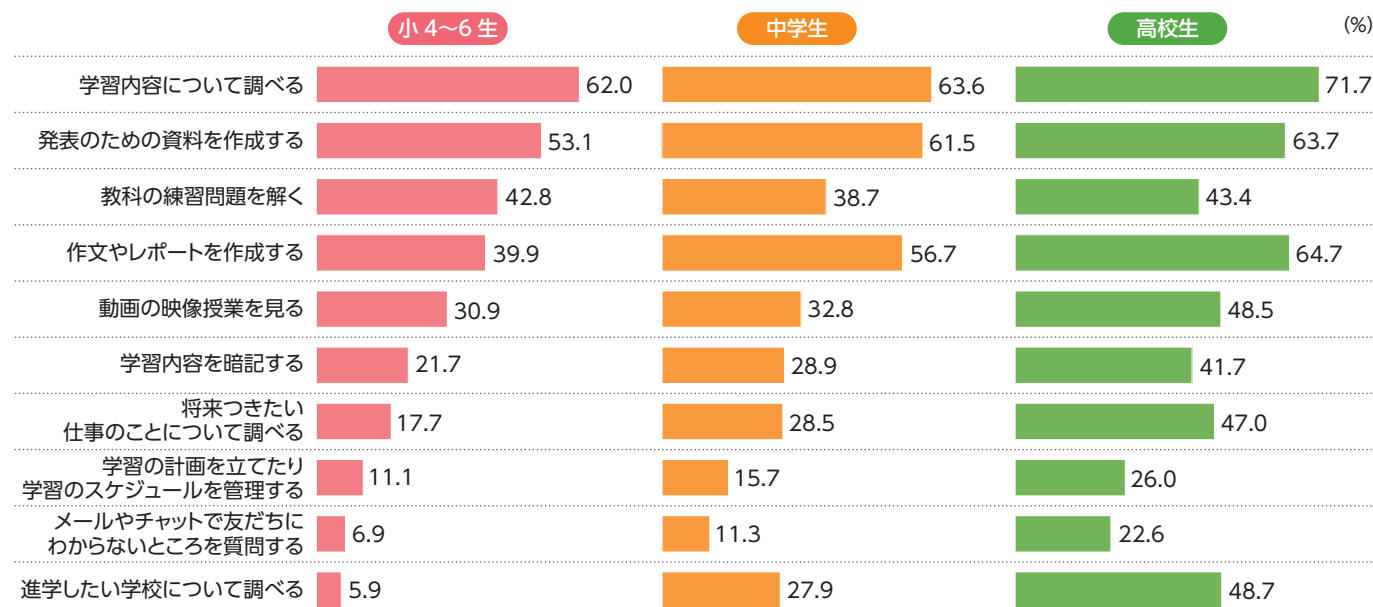
図1-6-2 学校で使っている ICT 機器を持ち帰る目的



注1) 学校で使っている ICT 機器を持ち帰る頻度をたずねた質問で、「まったく持ち帰らない」を選択した人を除いて分析。
注2) 複数回答。

Q 家では、学校から持ち帰った ICT 機器を使って、次のようなことをどれくらいしますか。

図1-6-3 家で持ち帰った学校の ICT 機器を使ってすること



注1) 学校で使っている ICT 機器を持ち帰る頻度をたずねた質問で、「まったく持ち帰らない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は、小4～6生は2,900人、中学生は2,059人、高校生は1,256人。

注2) 「よくする+ときどきする」の%。

注3) 小4～6生の数値の降順に示す。

1 学校での ICT 機器の利用

1-7 学校での ICT 機器の利用に対する意見や評価

多くの子どもが「ICT 機器を使う授業は楽しい」と評価

宿題での ICT 機器利用への意見をたずねた。「提出が簡単」（「とてもそう+まあそう」8割）、「どこでもできるのがよい」（7～8割弱）、「短時間で終わる」（6割弱）と評価している子どもが多いが、「紙よりわかりやすい」と感じる子どもは半数未満である。一方、7割弱の小中学生が「持ち帰りがたいへんだ」、半数以上の高校生が「勉強以外のことに使ってしまう」という意見もある。また、学校で「ICT 機器を使う授業は楽しい」「ICT 機器を使う授業を増やしてほしい」と評価する子どもは5割～8割いる。しかし「学校の ICT 機器を自由に持ち帰りたい」「ICT 機器を使った宿題を増やしたい」は5割前後にとどまる。

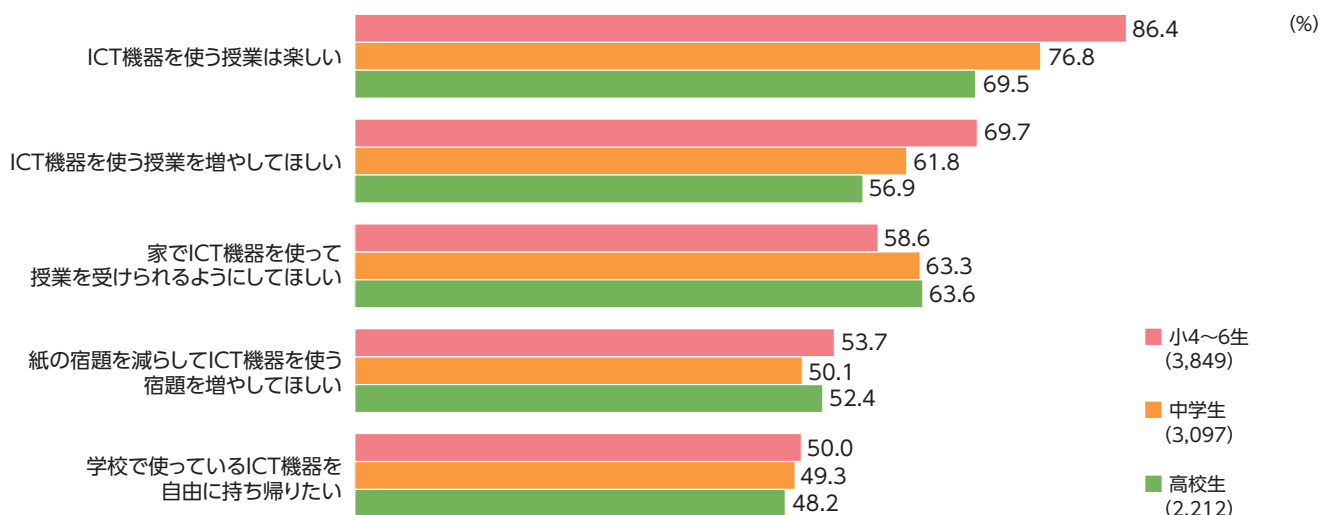
Q 宿題で ICT 機器を使うことについて、あなたはどのように思いますか。
※今、宿題で使うことがなくても、あなたの考えを教えてください。

図 1-7-1 学校の宿題で ICT 機器を使うことに対する意見



Q 学校で ICT 機器を使うことについて、あなたは次のようなことについてどう思いますか。

図 1-7-2 学校で ICT 機器を使うことに対する評価



注1) 学年をたずねた質問で、「在学していない」を選択した人を除いて分析。(図1-7-1、2)

注2) 「とてもそう+まあそう」の%。(図1-7-1)

注3) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。(図1-7-2)

注4) 小4～6生の数値の降順に示す。(図1-7-1、2)

2 家庭での ICT 機器の利用

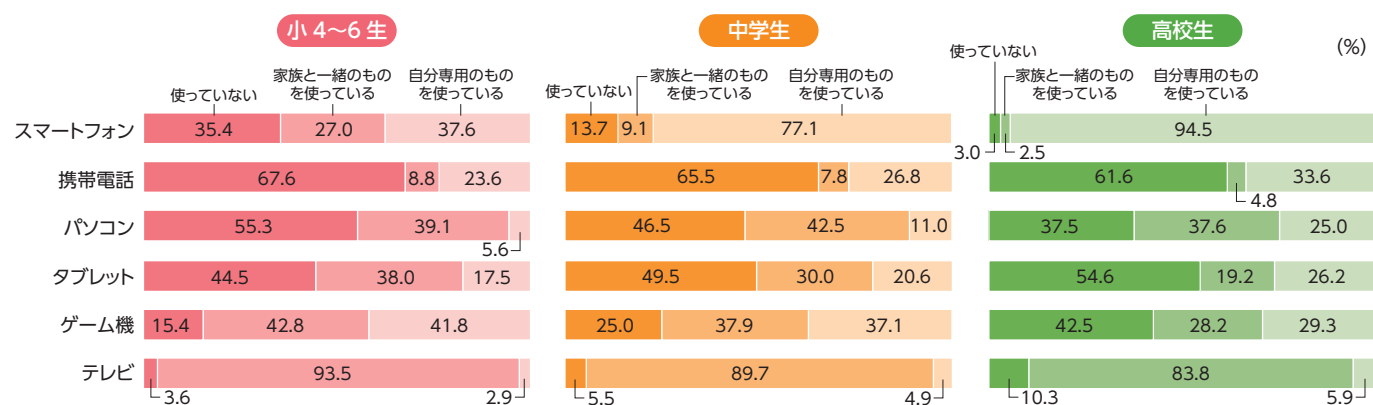
2-1 家庭で利用する機器の種類と利用頻度・時間

スマートフォンの専有割合は小4～6生4割弱、 中学生8割弱、高校生9割

家で使っている多くの ICT 機器は、子どもの年齢が上がるにつれ「自分専用のもの」が増える。しかし、ゲーム機では、小4～6生の専用割合は中学生より高く、4割を超える。家で「ほぼ毎日」スマートフォンを利用している割合をみると、小4～6生の6割、中学生の9割弱、高校生の9割強と、学校段階が上がるに従い、使用頻度が高くなる傾向がある。1日あたりの平均使用時間ももっとも長いのは、小4～6生ではテレビ（103分）、中学生ではスマートフォン（中学生127分、高校生193分）である。またスマートフォンは女子が、パソコンやゲーム機は男子が使用時間が長い傾向で、性別による差がみられた。

Q あなたは、家で、次のような ICT 機器を使っていますか。
 ※学校から配布された機器、学校指定で購入した機器は除いてください。
 ※複数の ICT 機器を使っている場合は、よく使っているものについてお答えください。

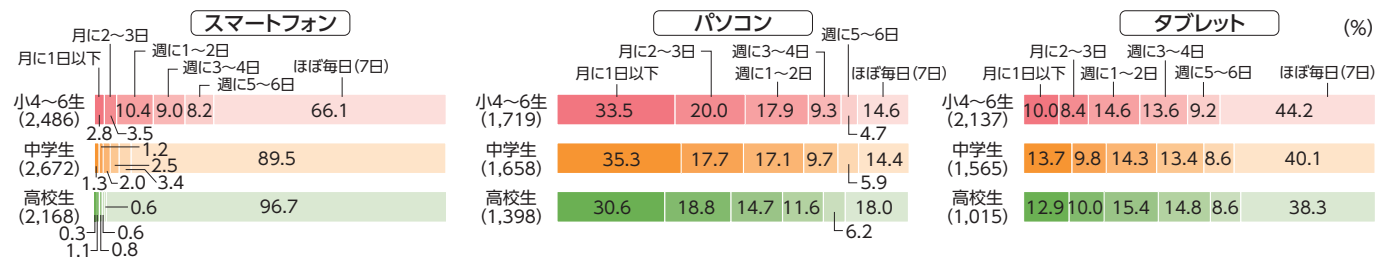
図2-1-1 家庭での各種 ICT 機器の使用状況



Q 家では次の ICT 機器を、どれくらい使っていますか。(図2-1-2)

Q 家では、次の ICT 機器を、1日あたりどれくらいの時間使っていますか。
 使う日について、1日あたりだいたい平均使用時間を教えてください。(表2-1-1)

図2-1-2 家庭での ICT 機器の利用頻度



注1) ICT 機器の種類別に家で使っている状況をたずねた質問で、それぞれの機器について「使っていない」を選択した人を除いて分析。
 注2) スペースの関係で、携帯電話、ゲーム機、テレビを除いて、スマートフォン、パソコン、タブレットを図に示す。

表2-1-1 家庭で1日あたり各種機器を使っている平均時間

機器	小4～6生	中学生	高校生	小4～6生		中学生		高校生	
				男子(1,904)	女子(1,903)	男子(1,447)	女子(1,582)	男子(997)	女子(1,187)
スマートフォン	53.5	126.5	193.3	46.8	60.3	118.2	134.9	189.9	195.3
携帯電話	10.7	25.0	39.1	9.5	11.8	25.1	25.3	42.1	36.7
パソコン	16.6	26.3	35.2	19.3	13.6	31.6	21.3	46.2	25.0
タブレット	35.0	35.0	36.2	33.7	36.1	34.3	36.1	37.5	34.9
ゲーム機	65.7	54.6	39.6	78.4	53.1	72.7	38.3	57.0	24.9
テレビ	103.0	92.2	78.6	101.5	104.3	85.4	99.2	68.5	87.2

注1) 平均時間は ICT 機器の種類別に家で使っている状況をたずねた質問で、それぞれの機器について「使っていない」を選択した人も母数に含めて、「使っていない」を0分、「4時間」を240分、「4時間以上」を300分のように置き換えて算出。
 注2) 性別の数値については、性別をたずねた質問で、「その他」「回答しない」を選択した人を除いて分析。

2 家庭での ICT 機器の利用

2-2 インターネットの利用率と利用用途

ショッピングや学習よりチャット・SNS、情報収集、音楽・動画・ゲームでの利用が多い

9割の小4～6生、ほとんどの中高生は家でインターネットを利用している。利用用途をみると、小4～6生の2割弱、中学生の4～5割、高校生の6割は、ほぼ毎日チャットやSNSを使って人と交流している。趣味・娯楽での利用は、動画、音楽、ゲームに集中する。「動画をみる」はどの年齢でもトップで、かつ年齢が上がるにつれ、ほぼ毎日利用する割合が高くなる。それに対して「ほぼ毎日」「ゲームをする」小中高生は4割弱で、年齢による差はほとんどみられない。一方、人との交流や、趣味・娯楽に比べて、支払いやショッピング、学習でのネット利用はまだ少ない。

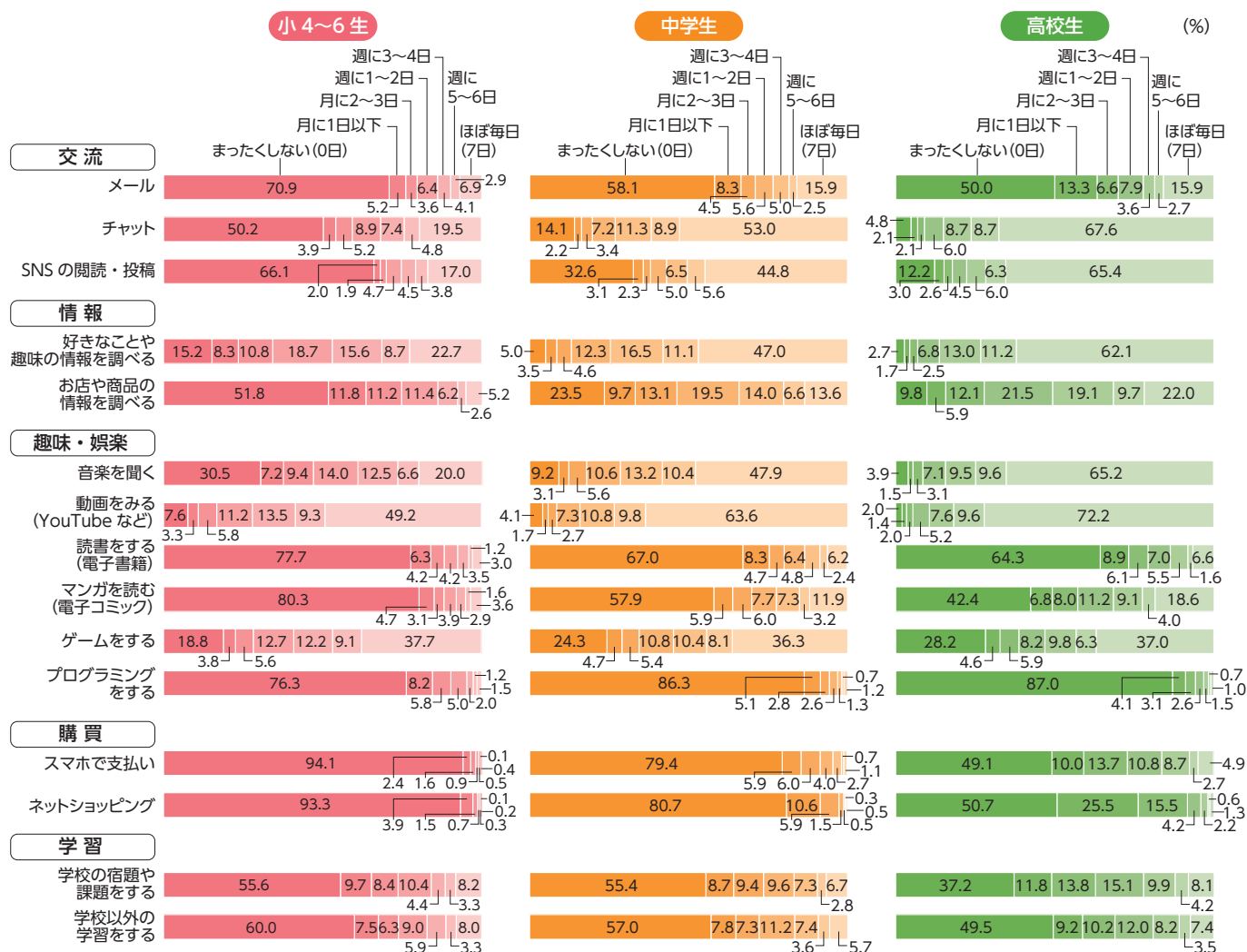
Q あなたは、家でインターネットを利用していますか。 ※ ICT 機器の種類は問いません。

表2-2-1 家でのインターネットの利用率

	小4～6生	中学生	高校生
家でのインターネットの利用率	93.3	96.7	97.7

Q インターネットを使って、次のようなことをどれくらいしていますか。
※ ICT 機器の種類は問いません。 ※学校以外での利用を教えてください。

図2-2-1 インターネットの利用用途



注) インターネットの利用有無をたずねた質問で、「利用していない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は小4～6生 3,590人、中学生 2,995人、高校生 2,184人。「学校の宿題や課題をする」のみ、「在学していない」を選択した人を除いて2,161人の回答を分析)。

2 家庭での ICT 機器の利用

2-3 インターネットでの人との交流

「生活に欠かせない」と感じる小4～6生は2割、 中学生は4割、高校生は5割

ICT 機器を使って交流する人をみると、小4～6生は家族が中心だが、中学生になるにつれ、コミュニケーションが家族以外の人にも広がっていく傾向がある。また、中学生の1割、高校生の2割弱は「インターネットで知り合った人」とつながりを持っていることもわかる。ICT 機器を使った人との交流に対して、「便利だ」「楽しい」と評価する子どもは6割弱～9割弱いる。3～4割の子どもは「悪口や攻撃しない」「知らない人とやりとりをしない」といった注意を払って利用している。ICT 機器をやりすぎて睡眠や勉強に影響すると考える中学生は2割前後いるが、「生活に欠かせない」と感じる子どもは年齢が上がるにつれ増加する。

Q あなたはふだん、ICT 機器を使って（メールや SNS など）、次のような人とやりとりをしていますか。インターネットを使ってやりとりをしている人がいたら、すべて選んでください。（図2-3-1）

Q ICT 機器を使ったメールやチャットでの人とのやりとりについて、次のようなことはあてはまりますか。あてはまるものをすべて選んでください。（図2-3-2）

図2-3-1 ICT 機器を使って、交流する人

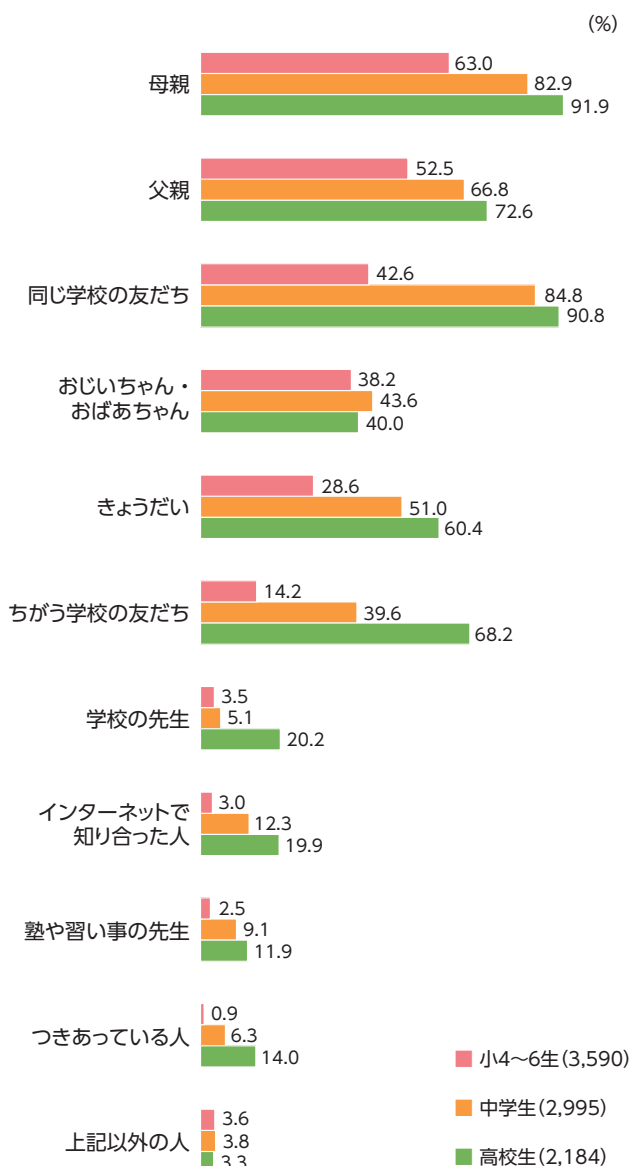
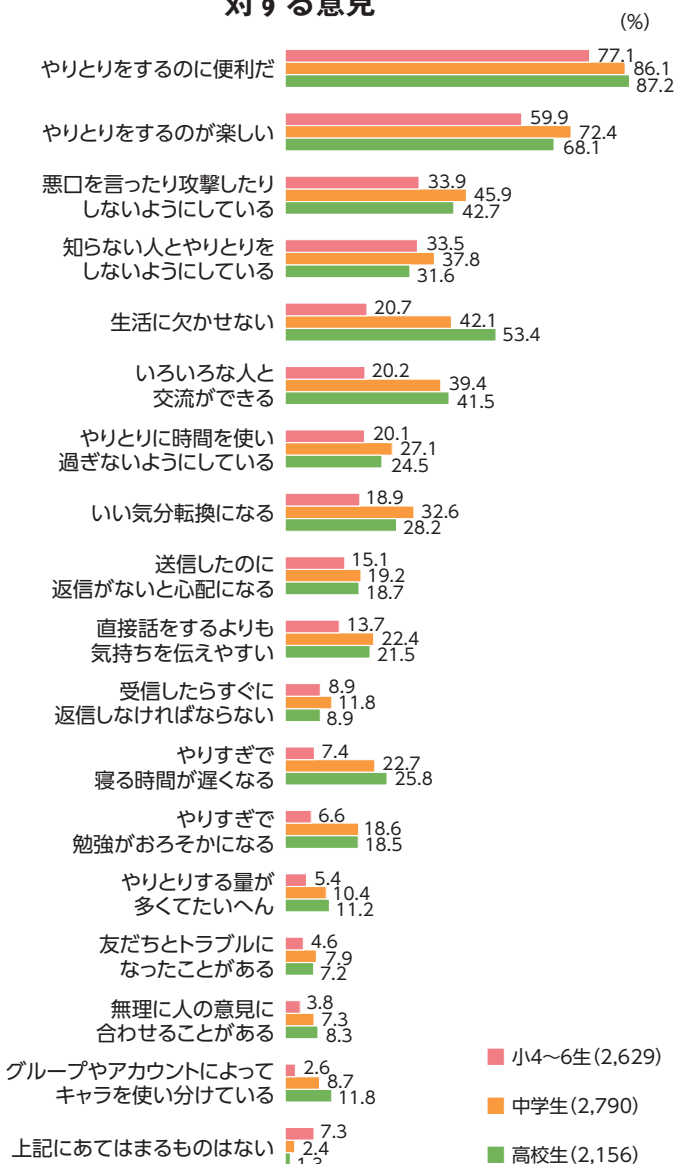


図2-3-2 ICT 機器を使った人との交流に対する意見



注1) インターネットの利用有無をたずねた質問で、「利用していない」を選択した人を除いて分析。
注2) 複数回答。
注3) 小4～6生の数値の降順に示す。

注1) ICT 機器を使って、交流する人をたずねた質問で、「ふだんやりとりする人はいない」を選択した人を除いて分析。
注2) 複数回答。
注3) 小4～6生の数値の降順に示す。

2 家庭での ICT 機器の利用

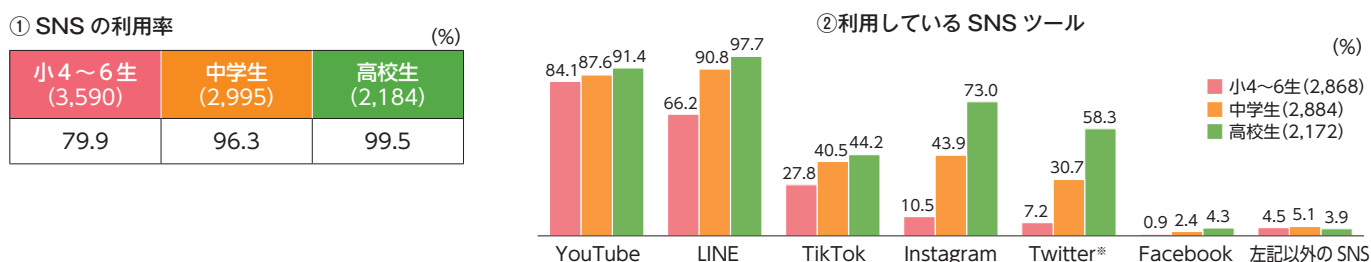
2-4 SNS の利用状況

子どもの年齢が上がるにつれ、 より多様な SNS ツールを利用するようになる

中高生ではほぼ全員、小4～6生でも8割弱が SNS を利用している。利用している SNS ツールをみると、小4～6生は YouTube（8割）、中高生は LINE（9割）がトップとなる。また高校生の7割が Instagram、6割弱が Twitter を利用している。利用目的については、小4～6生は家族や友だちとのコミュニケーションが中心であるが、中高生になると、人とのコミュニケーションに加えて、世の中の動きの把握や、自分の考えや様子の伝達、他者の意見の参考、さらに学校の授業や連絡といった学習まで、幅広く SNS を利用していることがわかる。

Q あなたはふだん、次のような SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用していますか。利用しているものをすべて選んでください。

図2-4-1 SNS の利用率と利用する SNS ツール



注1) ①については、インターネットの利用有無をたずねた質問で、「利用している」を選択し、かつ SNS を利用しているかをたずねた質問で、SNS ツールをどれか一つでも選択した人の比率。

注2) ②については、インターネットの利用有無をたずねた質問で、「利用していない」を選択し、かつ SNS を利用しているかをたずねた質問で、「SNS は利用していない」を選択した人を除いて分析。

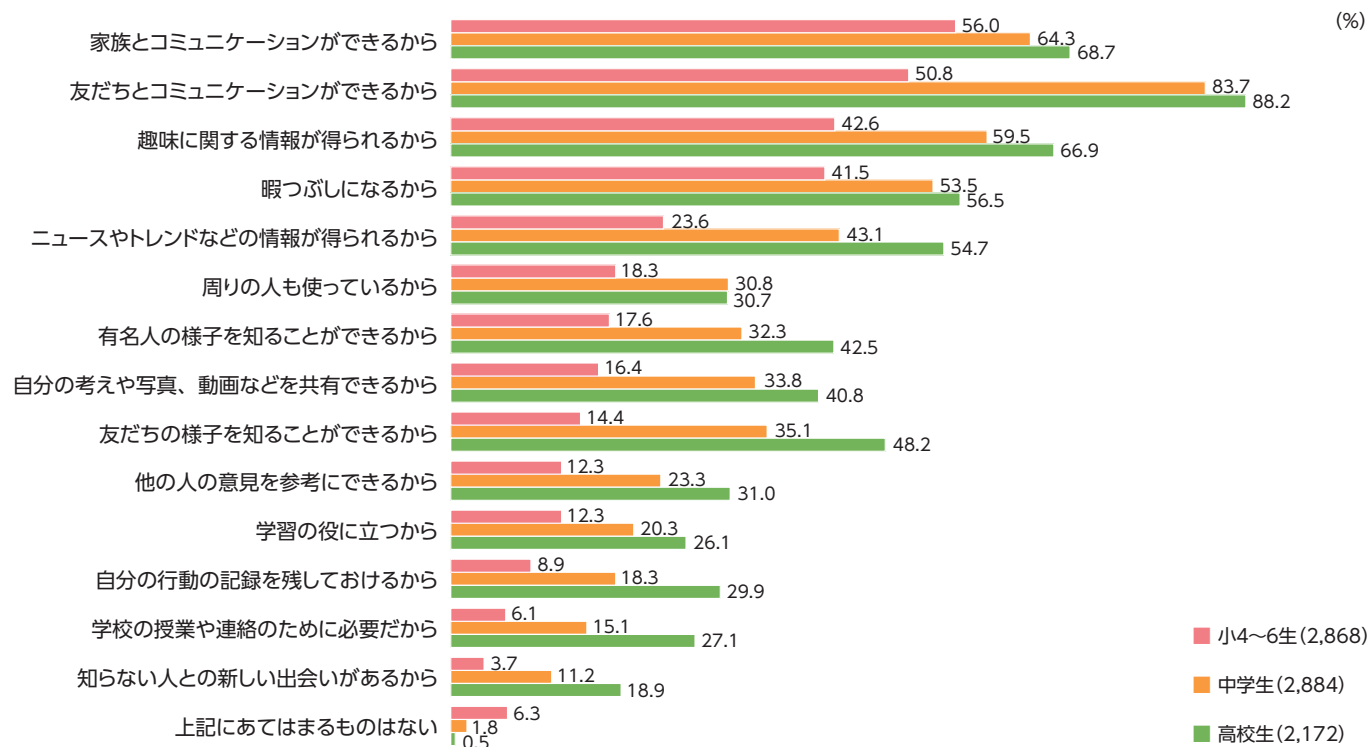
注3) ②については、複数回答。

注4) ②については、小4～6生の数値の降順に示す。

注5) ※は2023年調査時の名称。

Q あなたが SNS を利用する目的は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

図2-4-2 SNS を利用する目的



注1) SNS を利用しているかをたずねた質問で、SNS ツールをどれか一つでも選択した人を分析。

注2) 複数回答。

注3) 小4～6生の数値の降順に示す。

2 家庭での ICT 機器の利用

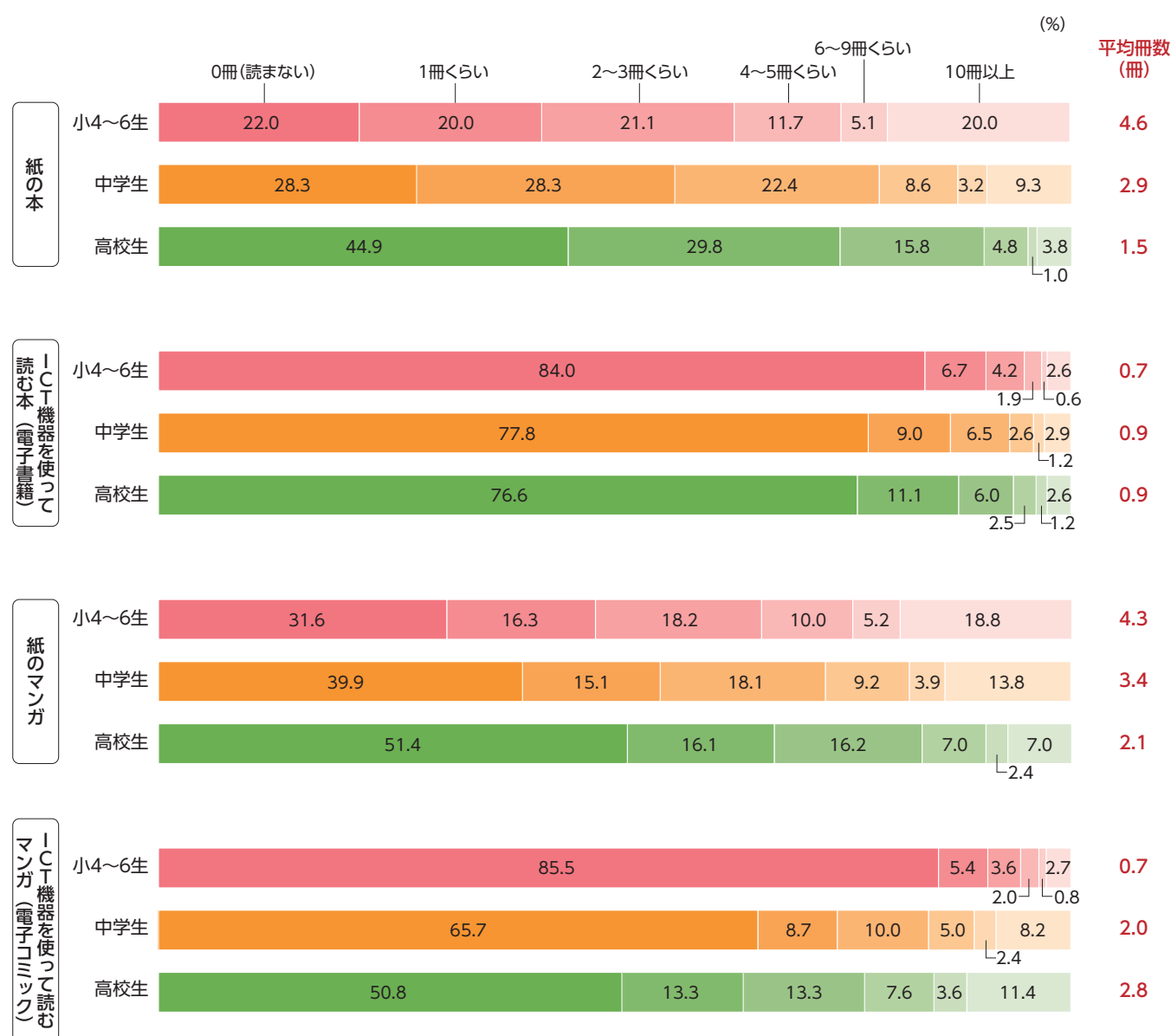
2-5 読書

年齢が上がるにつれ、ICT 機器を使って本やマンガを読む経験が増える

1 か月の読書冊数についてたずねた。紙の本では、「0冊（読まない）」は小4～6生では2割、中学生では3割弱、高校生になると4割に増える。年齢が上がるにつれ、紙の本を読まなくなる傾向がみられる。電子書籍はどの年齢でも利用が少なく、2割前後（月に「1冊くらい」～「10冊以上」）しか利用していない。紙のマンガを読む冊数をみると、中高生は紙の本より若干多い（「4～5冊くらい」＋「6～9冊くらい」＋「10冊以上」）。電子コミックについては、高校生の5割は月に「0冊（読まない）」である一方、1割は月に「10冊以上」読んでおり、紙の本、電子書籍、紙のマンガより触れている様子がわかる。

Q あなたは、紙の本やマンガと、ICT 機器を使って読む本やマンガ（電子書籍、電子コミック）を、月に何冊くらい読みますか。1か月に読むだいたいの冊数を教えてください。

図2-5-1 1か月の読書冊数



注) 「0冊（読まない）」を0冊、「2～3冊くらい」を2.5冊、「6～9冊くらい」を7.5冊、「10冊以上」を15冊のように置き換えて平均冊数を算出。

2 家庭での ICT 機器の利用

2-6 家庭学習時間

年齢が上がるにつれ、「家庭学習で ICT 機器は使わない」は減少

学校の宿題以外の家庭学習時間についてたずねた。「家庭学習はしない（0分）」子どもは2割～3割弱いる。高校生では「家庭学習はしない（0分）」（3割弱）人が多い一方、3時間以上（「3時間」～「4時間より多い」）家庭学習を行っている人も1割強おり、二極化している傾向がある。また中3生、高3生は平均家庭学習時間が長く、進学や受験との関連がみられる。家庭学習での ICT 機器利用はどの学校段階をみても、「半分よりも少ない（1～3割）」に集中する。さらに中高生に比べ、小4～6生では「家庭学習で ICT 機器は使わない」人が多いが、「ほぼ毎回の家庭学習で使う」人も多い特徴がある。

Q 宿題以外の家庭学習を、どれくらいの時間していますか。
「学校の宿題の時間」や「塾に行って学習する時間」を除いて教えてください。

図2-6-1 宿題以外の家庭学習時間

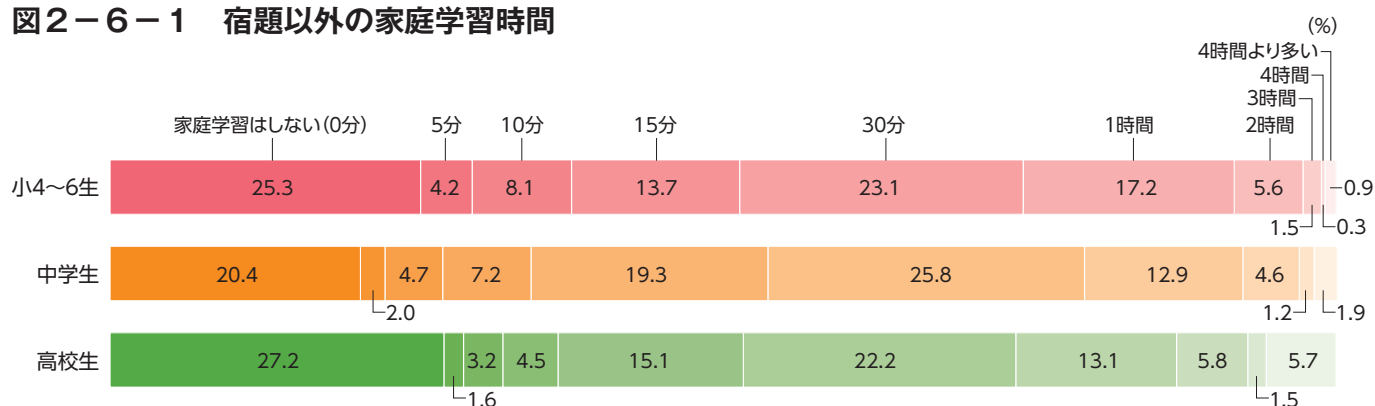
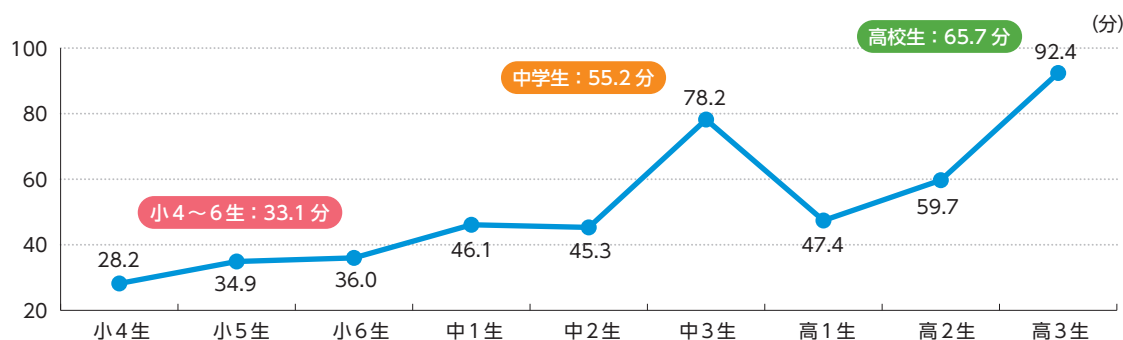


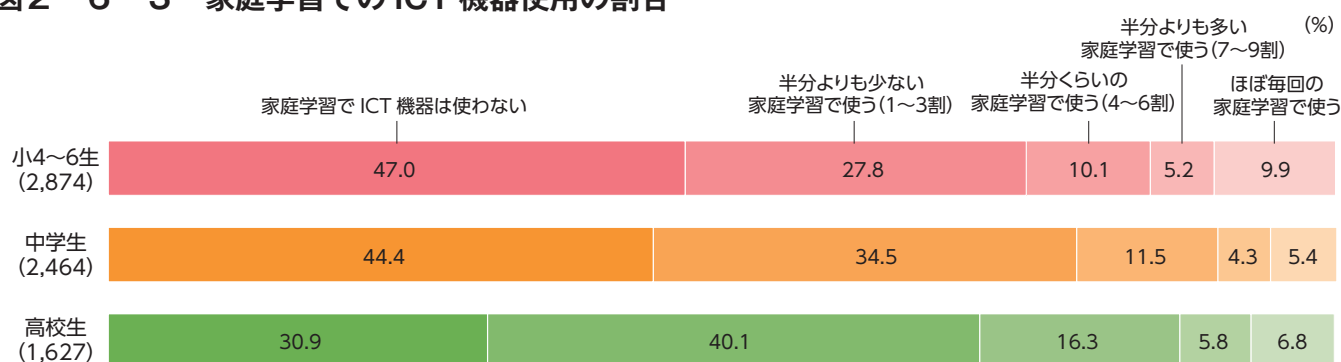
図2-6-2 宿題以外の家庭学習の平均時間（学年別）



注) 平均時間は、宿題以外の家庭学習時間をたずねた質問で、「家庭学習はしない」を0分、「4時間以上」を300分のように置き換えて算出。

Q 家庭学習のなかで、ICT 機器をどれくらいの割合で使いますか。
「学校の宿題の時間」は除いて教えてください。

図2-6-3 家庭学習での ICT 機器使用の割合



注) 宿題以外の家庭学習時間をたずねた質問で、「家庭学習はしない（0分）」を選択した人を除いて分析。

2 家庭での ICT 機器の利用

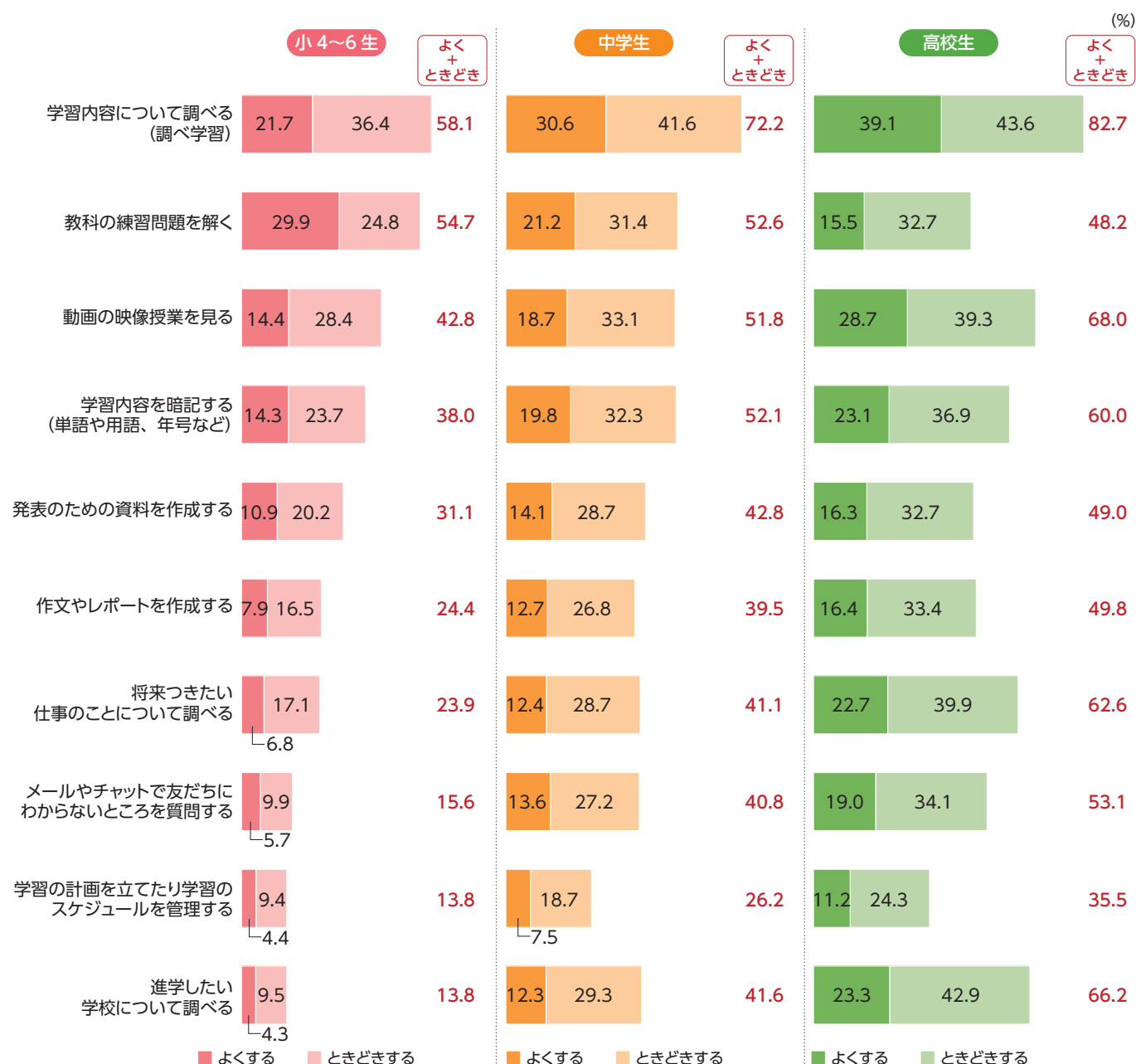
2-7 ICT 機器を使った家庭学習の内容

小中学生で活用のトップ3は 「調べる」「練習問題を解く」「映像授業を見る」

ICT 機器を使って行っている家庭学習の内容についてたずねた。「調べる」はどの年齢でもトップである。また小中学生では「練習問題を解く」（「よくする+ときどきする」5割）、高校生では「映像授業を見る」（7割弱）が「調べる」に次いで2位となる。さらに高校生になると、進学・進路（「将来つきたい仕事」「進学したい学校」について調べる）や基礎学習（「学習内容の暗記」「練習問題を解く」）、探究的な学び（「発表資料」「作文やレポート」の作成）、人との学びあい（「メールやチャットで友だちに質問」）など、多様な学びで ICT 機器を活用している様子が見えてくる。

Q あなたは、家庭で勉強する時に ICT 機器を使って次のようなことをしますか。
※「学校の宿題」でやる場合は除いて答えてください。

図2-7-1 ICT 機器を使った家庭学習の内容



注1) 宿題以外で、ICT 機器を使った家庭学習の割合をたずねた質問で、「家庭学習で ICT 機器は使わない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は小4~6生 1,522 人、中学生 1,371 人、高校生 1,124 人。

注2) 小4~6生の数値の降順に示す。

2 家庭での ICT 機器の利用

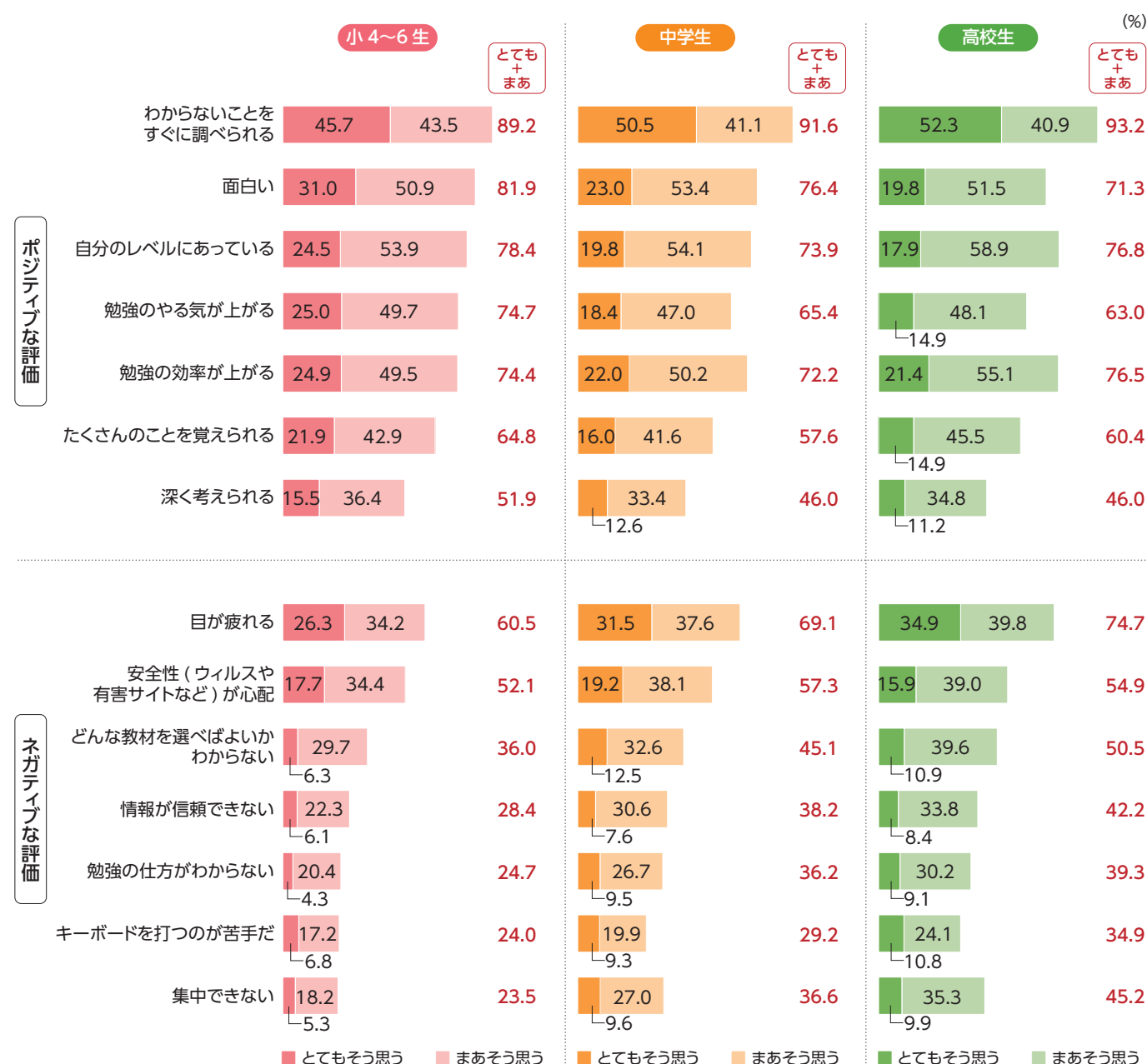
2-8 ICT 機器を使った家庭学習に対する評価

年齢が上がるにつれ、教材選びや情報の信頼性、勉強の仕方に悩む子どもが増える

家庭学習での ICT 機器の利用については、どの年齢でももっとも評価されているのは「すぐ調べられる」（「とてもそう思う+まあそう思う」9割前後）ことである。また「面白い」「自分のレベルにあっている」は小中学生では「すぐ調べられる」に次いで2位と3位になる。高校生になると、「面白い」より「自分のレベルにあっている」「勉強の効率が上がる」ことを評価している。しかし ICT 機器の利用で「深く考えられる」と思う中高生は5割弱にとどまる。一方「目が疲れる」「安全性」を心配する小中高生も多い。また ICT 機器の利用で勉強に「集中できない」と思う小4～6生は2割いるが、高校生は4割を超えることがわかる。

Q ICT 機器を使った家庭での学習について、あなたはどのように思いますか。

図2-8-1 ICT 機器を使った家庭学習に対する評価



注1) 宿題以外で、ICT 機器を使った家庭学習の割合をたずねた質問で、「家庭学習で ICT 機器は使わない」を選択した人を除いて分析。分析対象者は小4～6生 1,522 人、中学生 1,371 人、高校生 1,114 人。

注2) ポジティブな評価、ネガティブな評価については、それぞれ小4～6生の数値の降順に示す。

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究 「子どもの生活と学び」研究プロジェクト

調査企画・分析メンバー

研究プロジェクト代表者

佐藤 香（東京大学社会科学研究所 教授）

野澤 雄樹（ベネッセ教育総合研究所 所長）

耳塚 寛明（お茶の水女子大学 名誉教授、青山学院大学 客員教授）

木村 治生（ベネッセ教育総合研究所 主席研究員）

秋田 喜代美（学習院大学 教授、東京大学 名誉教授）

松本 留奈（ベネッセ教育総合研究所 主任研究員）

松下 佳代（京都大学 教授）

福本 優美子（ベネッセ教育総合研究所 研究員）

石田 浩（東京大学社会科学研究所 特別教授）

朝永 昌孝（ベネッセ教育総合研究所 研究員）

藤原 翔（東京大学社会科学研究所 准教授）

岡部 悟志（ベネッセ教育総合研究所 主任研究員）

大野 志郎（東京大学社会科学研究所 特任准教授）

中島 功滋（ベネッセ教育総合研究所 主任研究員）

大崎 裕子（立教大学 特任准教授）

劉 愛萍（ベネッセ教育総合研究所 主任研究員）

大内 初枝（ベネッセ教育総合研究所 研究スタッフ）

渡邊 未央（ベネッセ教育総合研究所 研究スタッフ）

※調査票検討・調査基盤の持続性ワーキンググループメンバー

須藤 康介（明星大学 准教授）

小野田 亮介（山梨大学大学院 准教授）

※所属・肩書きは、2023年9月時のものです。

研究プロジェクト Web サイトのご案内

ベネッセ教育総合研究所
<https://berd.benesse.jp/>



東京大学社会科学研究所
<https://web.iss.u-tokyo.ac.jp/clal/>



「子どものICT利用に関する調査2023」ダイジェスト版

発行日：2023年11月8日

発行人：野澤 雄樹

編集人：木村 治生

発行所：(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

編集協力：邵勤風

OHNB03

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。